

# 史跡 [調月の地名]発祥の地

地名は生きた化石 歴史の生き証人としての文化遺産

調月歴史愛好会 山下重良

「調月」と云う日本語で読めない地名の歴史は古く、はるか飛鳥時代に遡ることが判りました。今から千四百三十余年前に仏教が伝来、普及し始めたとき、仏教反対派と推進派が戦い内戦になり、当地にも、その争いが及んだことが地名の起こりとなりました。以下、原文は漢文や漢字カナ混じりで書かれていますが、現在文で要約すると次の通りです。

丁未(587年)七月十二日、当時、仏教推進派で当地の領主に王子吉仲麻呂と云う人あり。太子はこの年、当地の陣にて越年する。その所に僧十二人が来て、その中の師薬正人が太子に向かい、「御運開ける兆しあり」とて、僧らは八万堂で一心にお経を請じた。功あってついに物部守屋の調伏あり[野口家文書第二/紀氏系図/貳河家系図目録/旧高野領内文書(三)]。

崇峻天皇即位前年(587)七月、仏教推進派の蘇我馬子軍は、仏教排斥を主張した物部守屋一族の兵士と戦った。馬子軍は弱く、三度負けて苦戦した。このとき太子厩戸皇子は「いま我を敵に勝たせてくれれば寺塔を建てよう」と祈り、また蘇我馬子大臣は誓いをたて、「諸天王・大神王の爲に寺塔を建てて三宝を伝えよう」と祈願した。誓い終わって兵を進めて討つた。ときに、河内国澁河(現/八尾市渋川町)で樹に登って弓を引いていた物部守屋を、迹見首/赤禰が矢で射落として殺し戦いは終結した(後略)[日本書紀第二十一卷/崇峻天皇即位前紀]。

万事、思し召すまに調ったことから、お経の靈験を崇め、塚を築いてお経を奉納した。よって当地を「塚築」と名付けた。しかし文字には御調物の調を頭に書き、下には三日月の月を書くなり。よって調月(トトノフツキ)と書き、「ツカツキ」と云う事、この世よりのことなり。お経を奉納した所を経蔵谷と云い、その下の谷を神堂之谷と云うなり[野口家文書第二/紀氏系図/貳河家系図目録/旧高野領内文書(三)]。(注)経蔵谷はその後、溜池(曾池)が築造され、神堂谷は南部公民館前の谷で、今もその名で呼ばれています。

この故事を末永く後世に伝えるため碑石に刻み、有志の協力・協賛を得て、ここ八万堂跡に之を建てる。平成三十一年一月吉日



▼由緒碑



## 史跡碑の設置位置(略図)



(参考)紀男麻呂宿禰(推定 60 歳前後)は馬子軍に属し物部守屋を討った後、推古天皇十一(603)年、当地に来て紀氏の谷と称して四面を拓き、耕作の道を教え、五穀豊穡を祈るため八万堂に大歳明神を祀り、紀男麻呂宿禰調月と名乗る[野口家文書/紀氏系図/旧高野領内文書三]。

紀男麻呂宿禰(紀氏の 10 代)は調月の開祖となる。紀氏の谷(平野)を流れる大川は、当時は紀氏ノ川でした。その後、平安時代になって貴志川と呼ぶようになり、紀ノ川は今もその名で呼ばれています。下って、奈良時代の天平十三(741)年、八万堂が荒廃し、行基菩薩(奈良時代の高僧)の発願により、祭神/社殿を現在の大歳神社の地に遷し祀る[野口家文書/旧高野領内文書(三)]。その後も幾たびか社殿の修築が行われ、現在に至っています。詳細は下記サイトをご覧ください▼

[http://www.syamashita.net/history/hurusato/ootoshi\\_jinja.pdf](http://www.syamashita.net/history/hurusato/ootoshi_jinja.pdf)